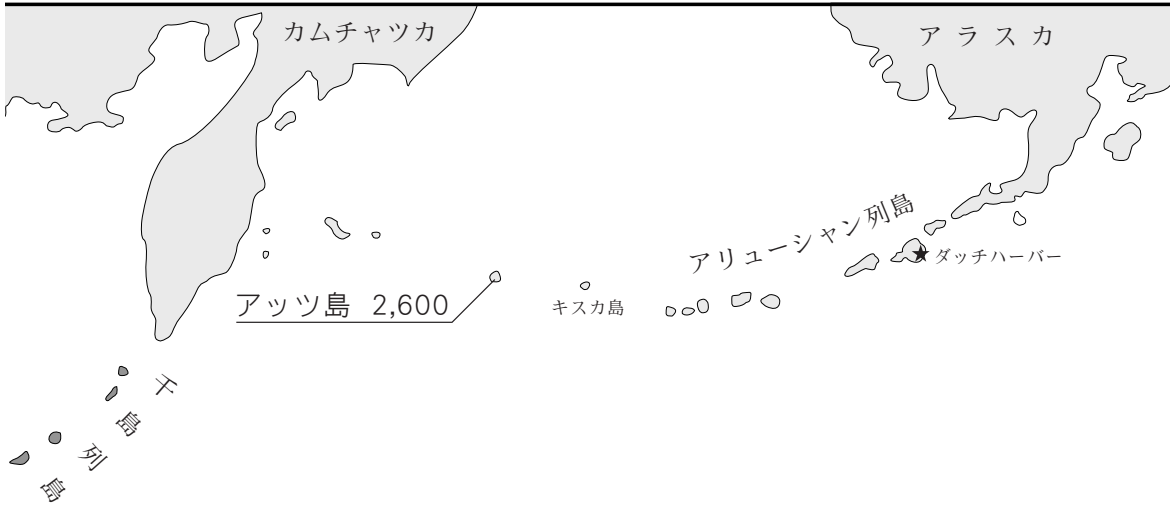


# 新旧対照地図



太平洋戦争における戦没者数  
**総数 2,121,000 人**

ミッドウェー島

ハワイ諸島  
 オアフ島

中部太平洋諸島 197,600

マーシャル諸島 7,790

・クェゼリン

トラック諸島

マキン  
タラワ

ビスマルク諸島 30,500

ギルバート諸島 5,214

ナウル

東部ニューギニア (パプアニューギニア) 127,600

ラバウル  
ブーゲンビル島

ソロモン諸島 88,200

ポートモレスビー

サモア諸島

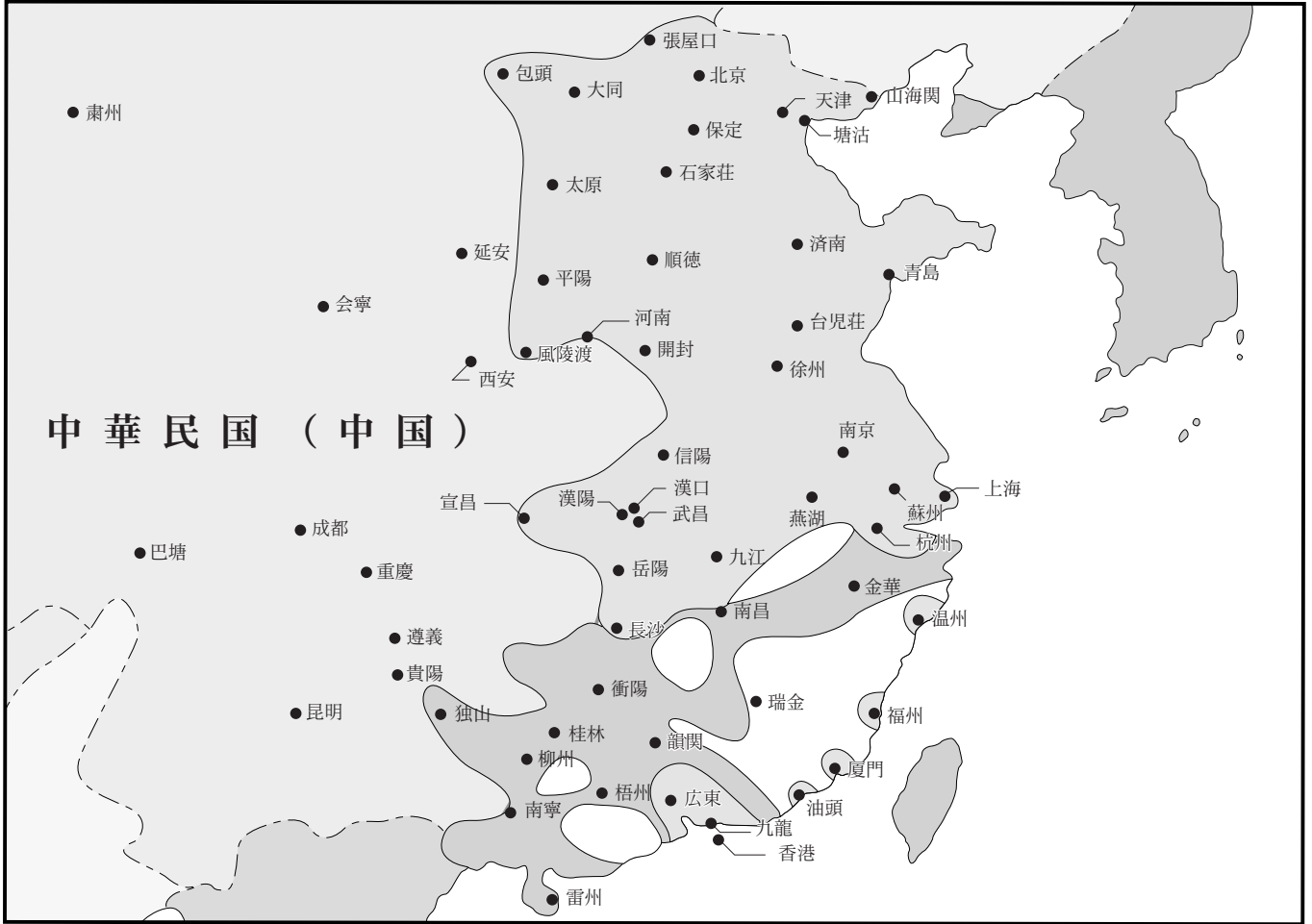
ガダルカナル島

## 【備考】

- 1 本図は、もとの陸海軍人軍属を対象としている。
- 2 本図は、日中戦争関係戦没者187,700人を含む。
- 3 国名・地名は、大戦当時のものを前に、現在のものは（ ）で表記している。
- 4 各国名・地名の後の数値は、戦没者数を表している。



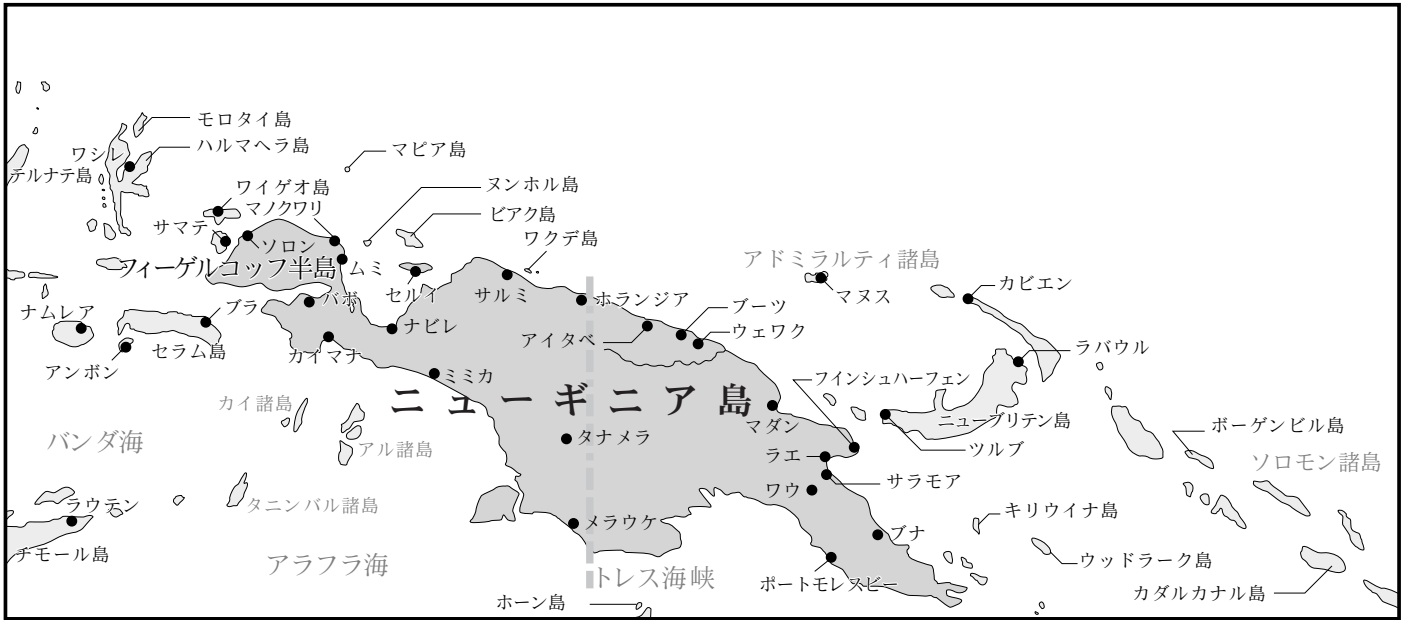
■ 中華民国 (中国)



■ フィリピン



■小スンダ・西部ニューギニア（西イリアン）・東部ニューギニア（パプアニューギニア）



■ビルマ（ミャンマー）



# 郷土部隊・歩兵第三十三連隊の歩み(久居駐屯)

陸軍の中核をなす歩兵連隊が概ね一県に一つは設置されていた戦前、三重県では久居(現在の津市)に歩兵第三十三連隊が置かれ、「三重県の郷土部隊」と呼ばれていた。

## ●歩兵第三十三連隊

明治二十九(一八九六)年九月、名古屋城内の仮兵舎で編成が完了し、歩兵第三十三連隊が誕生。翌年に守山に移転し、大正十四(一九二五)年五月五日軍縮により、久居駐屯地に駐屯していた歩兵五十一連隊の廃隊に伴い久居に移駐した。

日露戦争、その後シベリア・満州の警備、日中戦争、太平洋戦争と歴戦を重ね、日露戦争・奉天大会戦の勝利に貢献。太平洋戦争においては南方方面で連合軍と死闘を尽くし、昭和十九(一九四四)年、レイテ島で最後の突撃を敢行して玉砕し、誕生から五十年でその幕を閉じた。

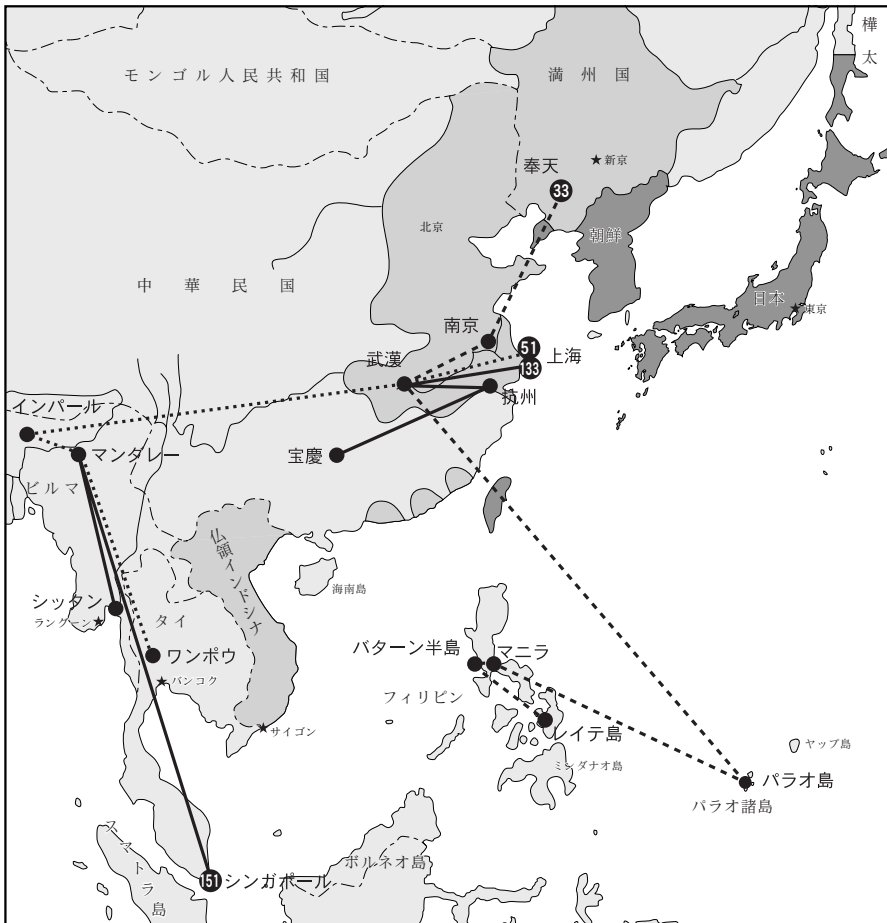
太平洋戦争後、自衛隊が創設された際、市民の強い要望により久居駐屯地が設置され、昭和三十七年陸上自衛隊の編成改変により連隊が創設された。初代連隊長の佐藤順蔵氏の熱望により、当初三十

四連隊となる予定であったが板妻連隊と番号を交換し、自衛隊の中でも唯一、旧軍と同じ地に同じ番号をもつ久居第三十三普通科連隊が誕生することとなった。

## ●歩兵第五十一連隊

明治三十八年四月、名古屋で編成が完了し、朝鮮の警備のために出兵。明治四十一年に久居駐屯地が完成すると朝鮮から帰還し、久居へ移駐。翌年、再び朝鮮に出兵、大正七年から八年にかけてはシベリア警備のため出兵していたが、軍縮により大正十四年廃隊が決定し、残った兵は第三十三連隊に併合された。

解隊式の際、当時の連隊長が予告したとおり昭和十三年に再編され、日中戦争に出兵。その後ビルマ方面に転戦、インパール作戦等に参加したが、昭和二十年終戦を迎え、九月に復員を完了した。



### 旧歩兵第33連隊

- 昭和 9. 4. 24 奉天
- 昭和 12. 12. 9 南京
- 昭和 13. 9. 17 武漢(武昌、漢陽、漢口)
- 昭和 16. 11. 26 パラオ島
- 昭和 17. 1. 2 マニラ
- 昭和 17. 4. 9 バターン半島
- 昭和 19. 4 レイテ島

### 旧歩兵第51連隊

- 昭和 13. 8. 8 上海
- 昭和 13. 10. 12 武漢(武昌、漢陽、漢口)
- 昭和 19. 3. 25 インパール
- 昭和 20. 3. 8 マンダレー
- 昭和 20. 8. 22 ワンポウ

### 旧歩兵第133連隊

- 昭和 13. 6. 20 上海
- 昭和 13. 10. 1 武漢(武昌、漢陽、漢口)
- 杭州
- 昭和 20. 8. 15 宝慶

### 旧歩兵151連隊

- 昭和 19. 4. 14 シンガポール
- マンダレー
- 昭和 20. 8. 15 シッター

[注] 国名・地名は、昭和20(1945)年以前の旧称を使用